西丸遺跡・東丸遺跡・宗藤遺跡

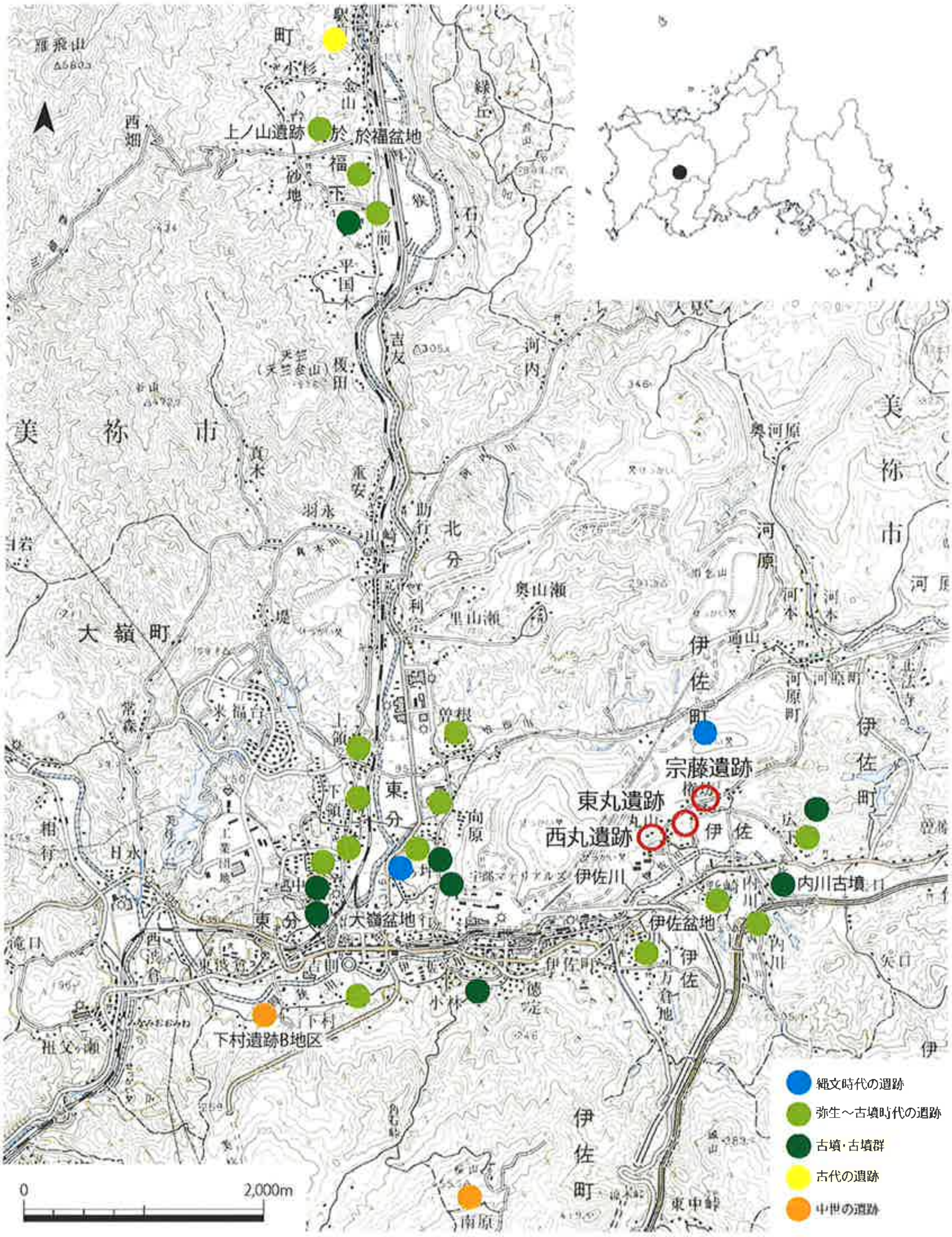
発掘調査成果報告会

令和7年（2025年）7月5日（土）10：00～11：30

伊佐公民館　記念館大ホール

公益財団法人山口県ひとづくり財団

山口県埋蔵文化財センター



1　はじめに

伊佐中央地区における県営ほ場整備事業に伴う令和２年度の山口県教育委員会（当時）による試掘調査の結果を受けて、令和６年度に美祢市教育委員会及び山口県美祢農林水産事務所の委託を受けた山口県埋蔵文化財センターが、３，０９６㎡の範囲について記録保存のための発掘調査を実施しました。令和６年６月７日（金）から調査を開始し、令和７年３月５日（水）に現地での調査を終了しました。

2　西丸遺跡・東丸遺跡・宗藤遺跡と周辺の遺跡について

西丸遺跡・東丸遺跡・宗藤遺跡は、古墳時代から近世にかけての集落跡で、美祢市伊佐町

の伊佐盆地の北側辺縁部に位置します。盆地の中央を東から西に向けて伊佐川が流れ、その南側に桜山や城山など比較的標高が高い山があり、北側には石灰岩台地があります。

伊佐盆地では、伊佐川の周辺に遺跡が集中して分布しています。遺跡の時期は弥生時代から古墳時代が中心で、主要な遺跡の一つに内川古墳があります。この古墳は、古墳時代前期から中期のものと考えられるもので、石棺のみが残った状態で発見され、幼児を含む男女6人分の人骨が出土しました。

また、近隣には、今回発掘調査した遺跡と関連する遺跡もいくつかあります。於福盆地には、弥生時代から古墳時代の竪穴建物やカマド跡が多く発見された上ノ山遺跡があります。大嶺盆地には、中世の掘立柱建物や集石遺構が発見された下村遺跡B地区があります。

西丸遺跡・東丸遺跡・宗藤遺跡周辺は、発掘調査事例が少ないため、まだ分かっていないことが多くあります。今回の発掘調査の成果では、伊佐盆地の歴史を知る上で今後重要な手がかりになるような発見がありました。

遠景（南東から）

調査区全景（上が北）

（山口県文化振興課提供写真から編集）

3　遺構(昔の建物跡や生活の跡)について

西丸遺跡

【１区】

掘立柱建物１２棟、柱列７条のほか、集石遺構や土坑、溝、性格不明遺構（陥没穴？）、柱穴700個以上を確認しました。遺物は、奈良時代から江戸時代を中心に、須恵器、土師器、瓦質土器、陶磁器等や青磁、白磁が出土しました。

性格不明遺構には多くの石が集められており、土器・陶磁器のほかに、石器や石製品（石鏃：石の矢尻、石包丁、石臼等）、鉄製品等が出土しました。

西丸遺跡１区　上が北

東丸遺跡

【１区】

東端の南東に落ち込む地形から、竪穴建物２棟のほか土坑や柱穴を検出しました。

竪穴建物のうち１棟はカマドをもち、その周辺には土器が置かれていました。北部九州や響灘沿岸地域と

東丸遺跡１区東端　上が北東

の交流をうかがわせる、底面に木の葉文を施した土師器も見つかりました。もう１棟の竪穴建物からは耳環（環状の耳飾り）が出土しました。いずれの竪穴建物も古墳時代後期のものと考えられます。

【２区】

土坑墓１基のほか、土坑、溝、柱穴 40 個以上を確認しました。土坑墓からは四肢骨とみられる人骨と鎌倉時代から室町時代頃の土師器杯・皿が出土しました。

東丸遺跡２区　上が北西

宗藤遺跡

【１区】

掘立柱建物９棟、柱列６条のほか、土坑や溝、性格不明遺構、柱穴 700 個以上、陥没穴等を確認しました。北端からは、調査区外に延びる、今回の発掘調査で最大規模、２間×５間（桁行約６ｍ）の掘立柱建物とその北側にも掘立柱建物が並列して所在することを確認しました。

性格不明遺構のうち１基は、方形に近い掘り込みの底面に多くの石が集められ、底面周囲の溝の中からは多くの炭化材が出土しました。出土遺物として、古墳時代の須恵器杯身・杯蓋、鎖や靫金具等の鉄製品、紡錘車や勾玉等の石製品があり、古墳との関係が考えられます。

また、陥没穴からは、須恵器や土師器、緑釉陶器等、奈良時代から平安時代を主体とする遺物のほか、中世の青磁や白磁、縄文時代の打製石斧や石鏃、獣骨等が出土しました。このことから、奈良時代から平安時代を中心とする生活面が、室町時代頃を下限として埋没したこと、縄文時代にもこの付近で生活が営まれていたことが推定されます。

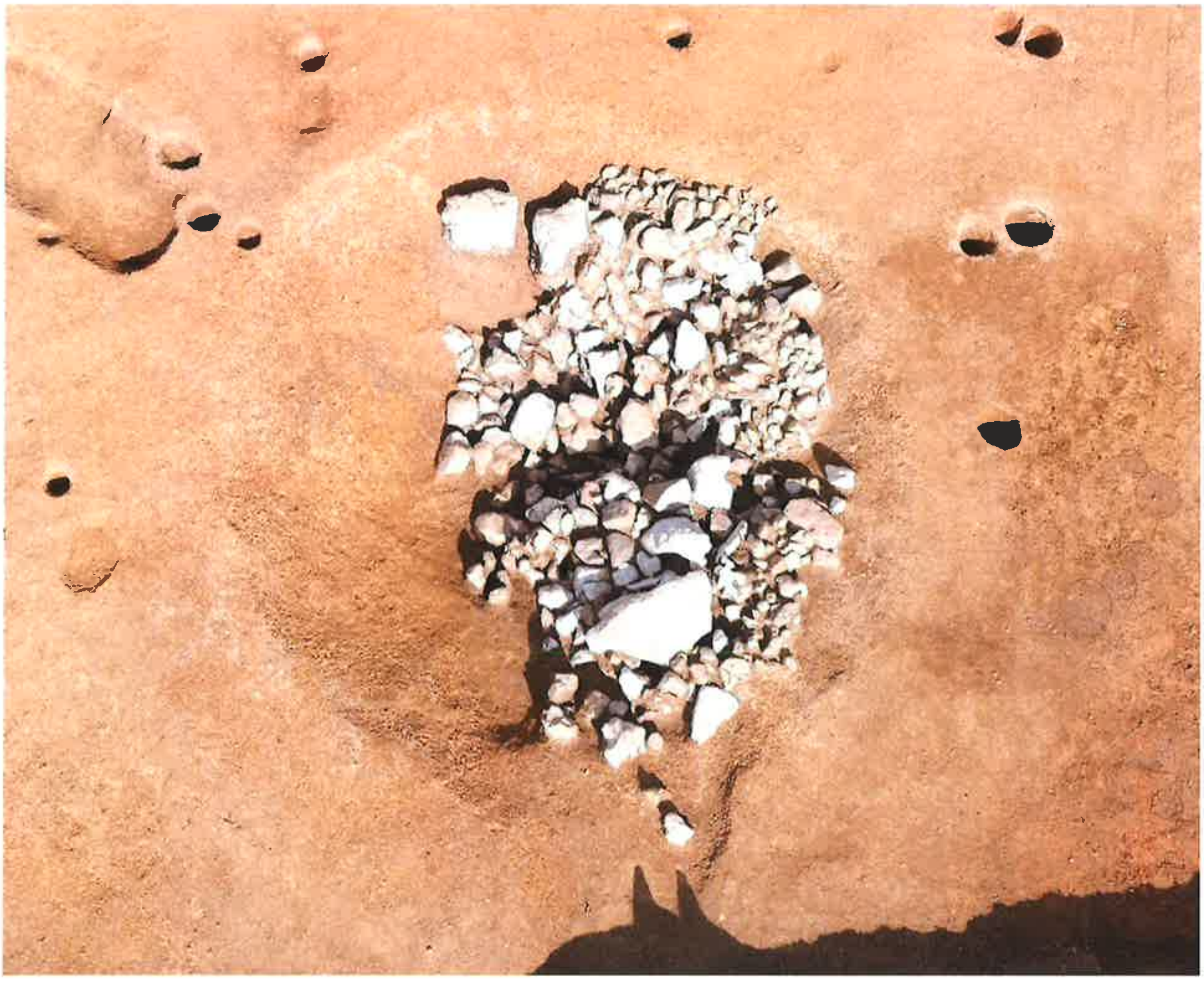
【２区】

細長い調査区から、柱穴約４０個が見つかりました。また、同方向に延びる柱列２条を検出しました。遺物は土師器や陶磁器のかけらが出土し、奈良時代から平安時代にかけての集落跡と考えられます。

宗藤遺跡１区　上が北

宗藤遺跡２区　上が北

４　遺構や出土遺物の様子



西丸遺跡１区　性格不明遺構(SX01)　南から

西丸遺跡１区　SX01 から鉄製品　北から

西丸遺跡１区　SX01 から白磁　西から

西丸遺跡１区　集石遺構(SK17)　東から

西丸遺跡１区　埋められていた大甕(SK02)　北から

東丸遺跡１区　竪穴建物(SI01)からカマドと土師器　東から

東丸遺跡２区　土坑墓(ST01)から土師器と四肢骨　東から

宗藤遺跡１区　性格不明遺構(SX02)　南から

宗藤遺跡１区　SX02 から鞍金具　南から

宗藤遺跡１区　SX02 から鎖　南から

宗藤遺跡１区　SX02 から紡錘車と須恵器　南から

宗藤遺跡１区　柱穴(SP11)から須恵器　南西から

宗藤遺跡１区　柱穴(SP56)から土師器　南から

5　竪穴建物SI 01の「ただものではない」土器たち

発掘調査で発見された土器の整理を進めたところ、調査時に分からなかった様々なことが明らかになってきました。ここでは、古墳時代後期（6世紀後半）の東丸遺跡1区竪穴建物SI01から出土し、「ただものではない」と調査員をうならせた土器たちをご紹介します。

（1）角（つの）のある土器

コップに角が生えたような形の土器「土師器把手付鉢」1点が完全な形で見つかりました。県内では11遺跡目の発見です。

この形の土器は朝鮮半島に起源を持つことから、当時最先端の技術や知識を持つ渡来系の人々が住んでいた可能性が浮かび上がってきました。

角のある土器（土師器把手付鉢）

（2）木の葉を描いた土器

竪穴建物SI01から見つかった土器を整理する過程で、底に線で葉脈を描いた（または木の葉を押し付けた痕のある）土器が複数あることが確認できました。県内では10遺跡目の発見です。

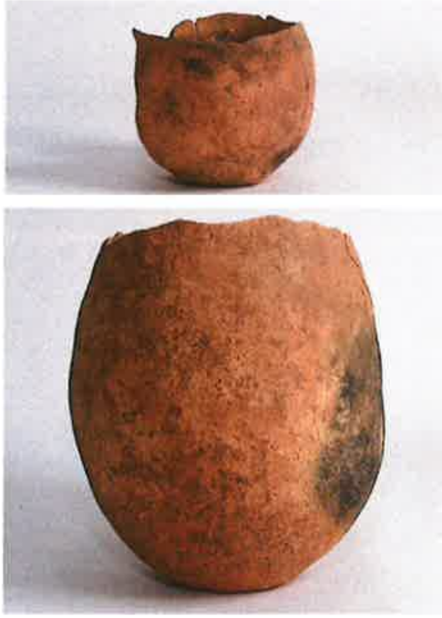
当時、木の葉は再生の意味を持っていたとされていますが、こうした土器は下関市豊浦地域に多く、九州北部からも出土例があります。

この土器があることで、伊佐地域に住む人々が響灘沿岸地域や九州と密接な交流を行っていたことが明らかになってきました。

土器に描かれた木の葉

（3）入れ子になった土器

竪穴建物SI01のカマドのそばから、大小2つの土器（土師器甕・鉢）が入れ子の状態で見つかりました。まつりの痕跡と考えられますが、県内ではほかに例がなく、詳しい内容は不明です。ていねいに調査しましたが、土器以外のものは発見されませんでした。食べ物などの有機物が入っていたのでしょうか。



入れ子になった土器

＊上の土器が下の土器に納められていました

6　失われた古墳を探せ！　～宗藤遺跡１区SX02の分析～

宗藤遺跡１区では、一見、古墳があったようには見えない水田の下から、石室の痕跡（SX02）と思われる遺構が見つかりました。現場調査の段階では、古墳の存在は想定していませんでしたが、調査時の記録を見直す過程で、かつて古墳が存在していた可能性が浮かび上がってきました。ここでは、分析の過程とそこから導き出された結果をご紹介します。

（１）現場調査で見つかった遺構

調査では南北約 4.0m、東西約 3.0m の範囲を取り巻くように凹みが連続する箇所が見つかりました。凹みは連なって溝のようになり、凹みの内側には石が散在していました。

（２）遺構から出土した遺物

凹みで囲まれた範囲を中心に、須恵器、土師器、石製紡錘車、勾玉のほか、武具（鞍金具）や馬具（鎖）が出土しました。これらのうち、勾玉、武具（鞍金具）、馬具（鎖）は、古墳の副葬品として遺跡から見つかることが多い遺物です。また、これらとほぼ同じ場所で出土したことから、須恵器・土師器なども古墳に関連する遺物であったと推定できます。これらのことから、凹みを石室の壁面石材設置痕と考え、この遺構は、古墳石室の痕跡ではないかとの考えに至りました。遺物は、6 世紀末から 7 世紀前半のものがあり、2～3 世代に亘って石室が共有されたことを想定できます。

（３）古墳の復元

遺構から推定される石室の規模と形状は、奥行き約 4.0m、幅約 3.0m の横穴式石室です。これと似た規模の古墳で、墳丘規模の明らかな県内事例を探すと、下関市岩谷（いわや）古墳があります。この古墳は、直径 13.6m、高さ 3m の円墳です。規模からすると、美祢郡内の郷（五～六郷）のうち、数郷程度に影響を及ぼす有力な首長が葬られたと考えられます。

発掘された石室（山陽小野田市・沓（くつ）古墳）

古墳の墳丘イメージ（下関市・岩屋古墳）

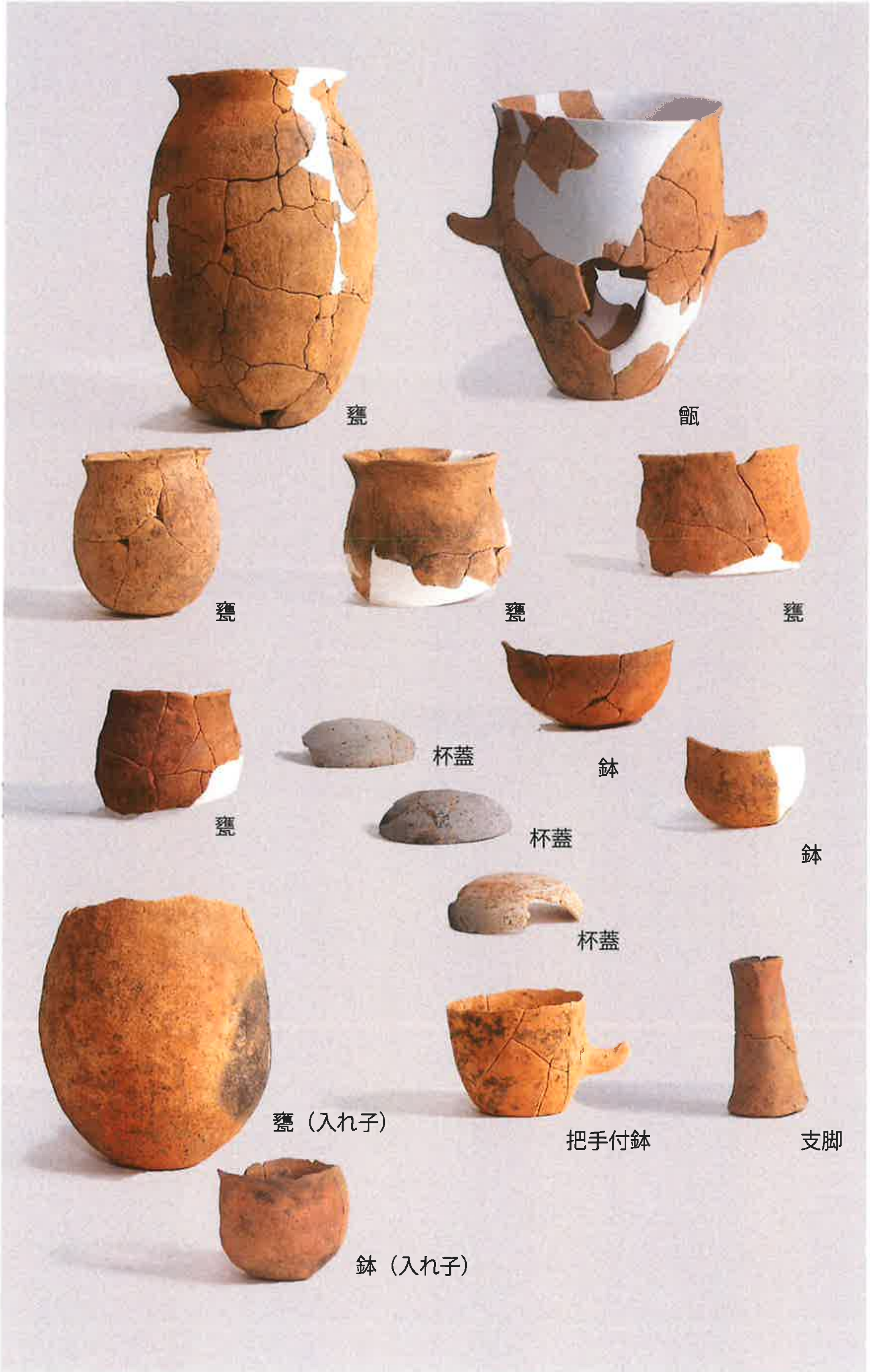
7　出土遺物写真

（1）西丸遺跡１区 SX01 と出土遺物

SX01　西から

出土遺物　鉄器・木屑

（２）東丸遺跡１区 SI01 出土土器



（３）東丸遺跡２区 ST01 と出土遺物

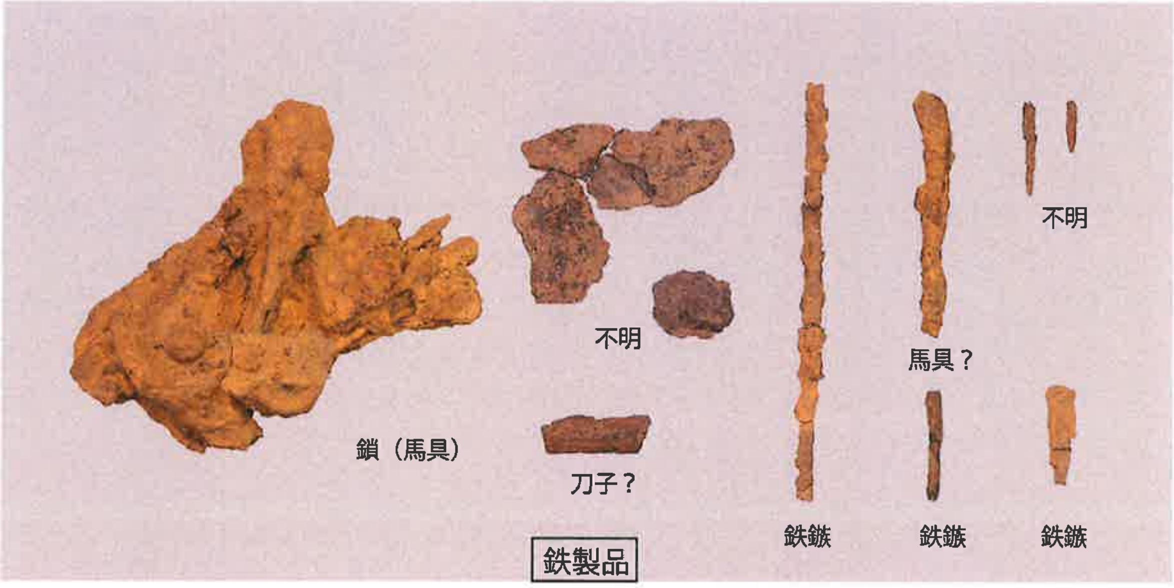
ST01（中世墓）西から

副葬品　土師器杯・皿

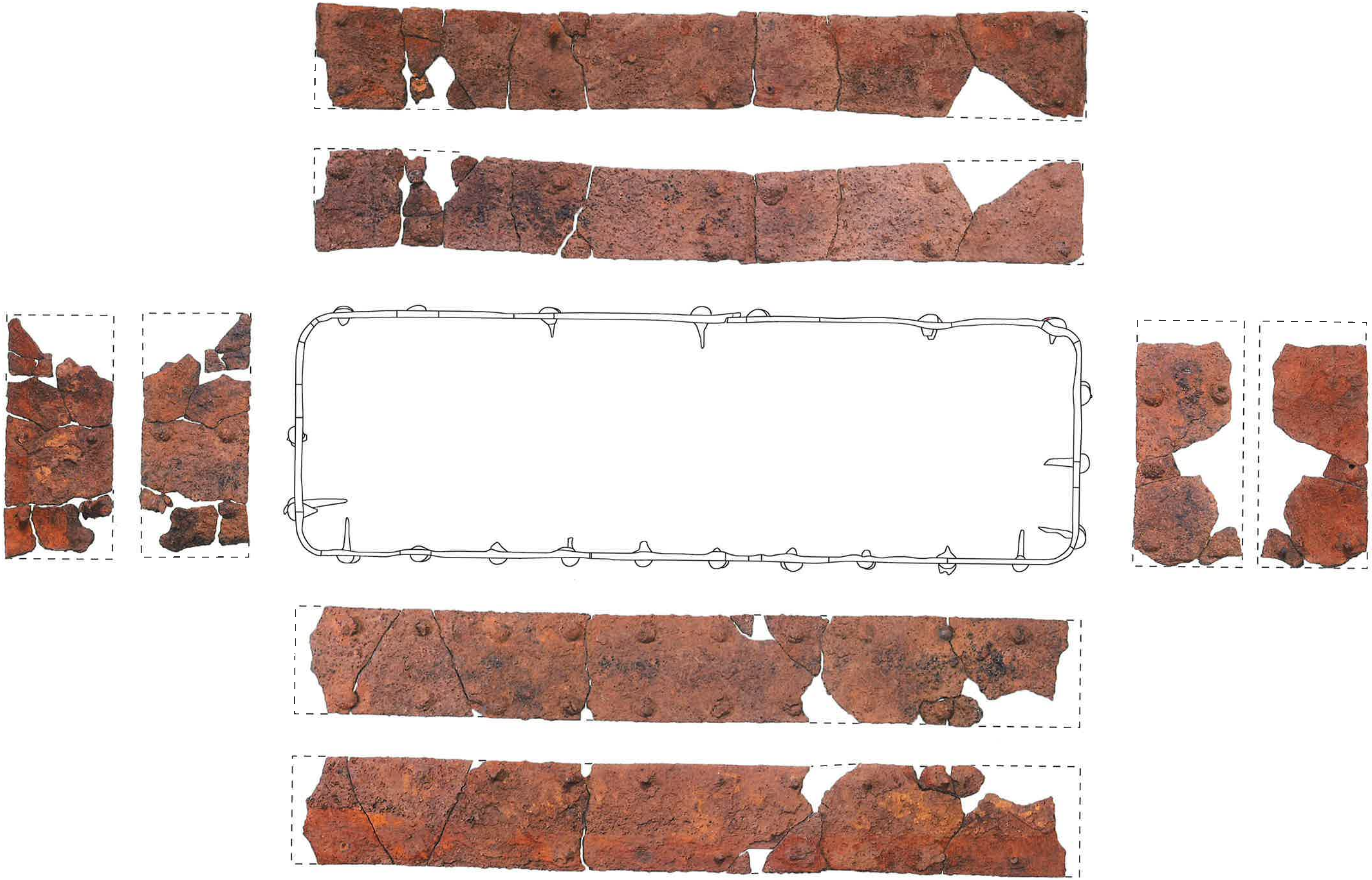
（４）宗藤遺跡１区 SX02 と古墳関連遺物

SX02　南から

古墳関連遺物（１）土器類

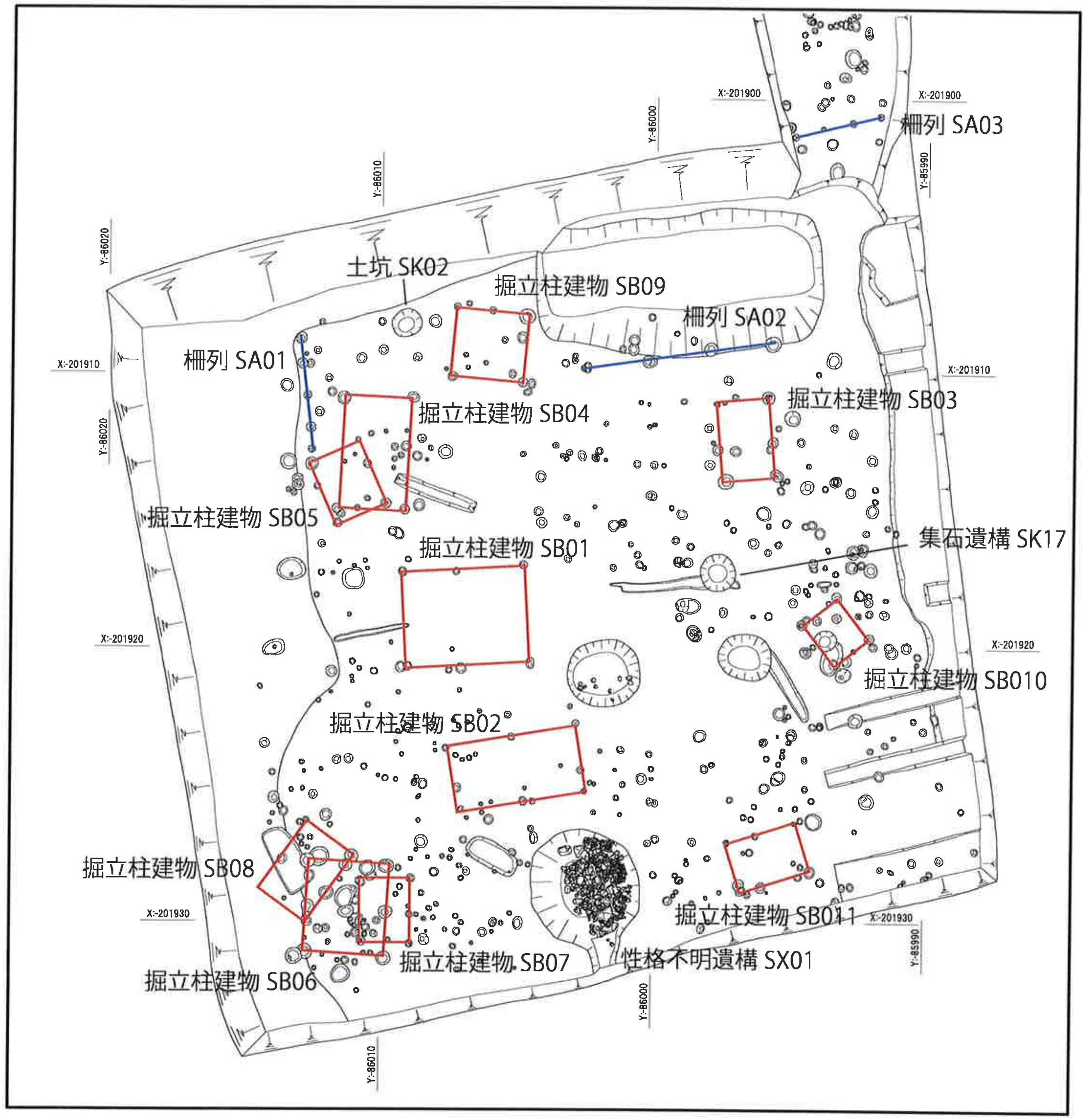


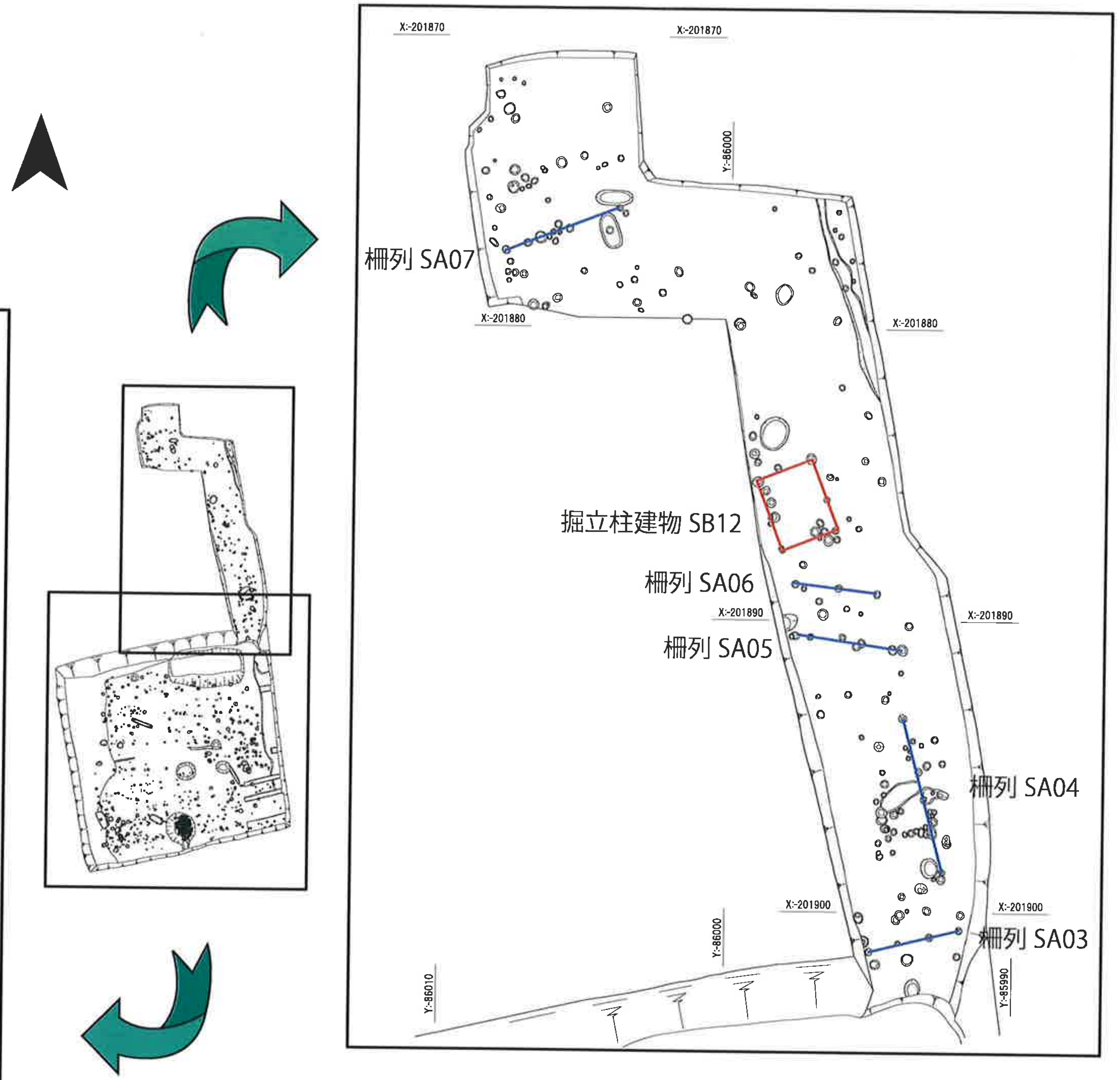
古墳関連遺物（２）鉄製品・石製品



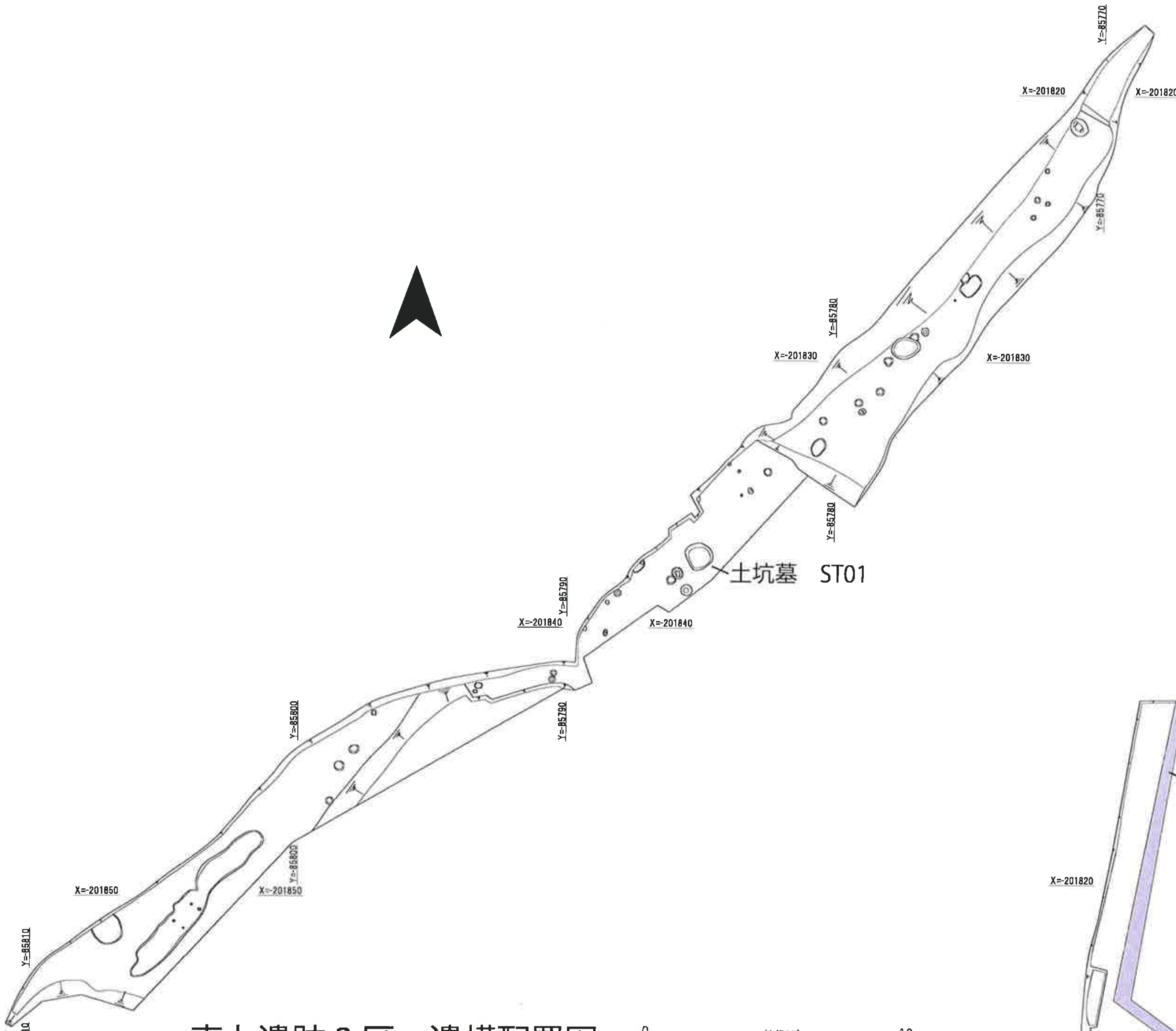
古墳関連遺物（3）鉄製品（鞍金具）

0 (1/1) 2.5cm

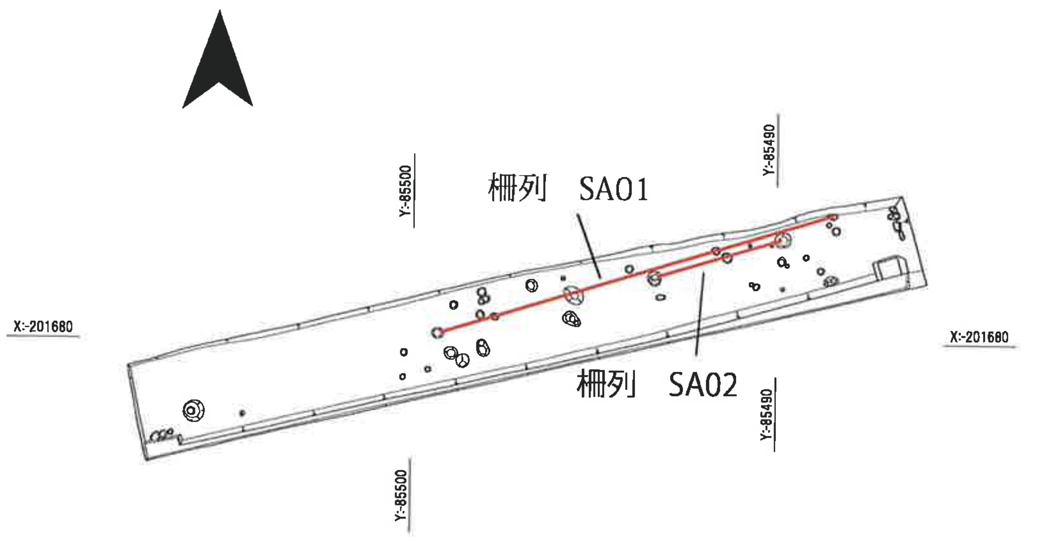




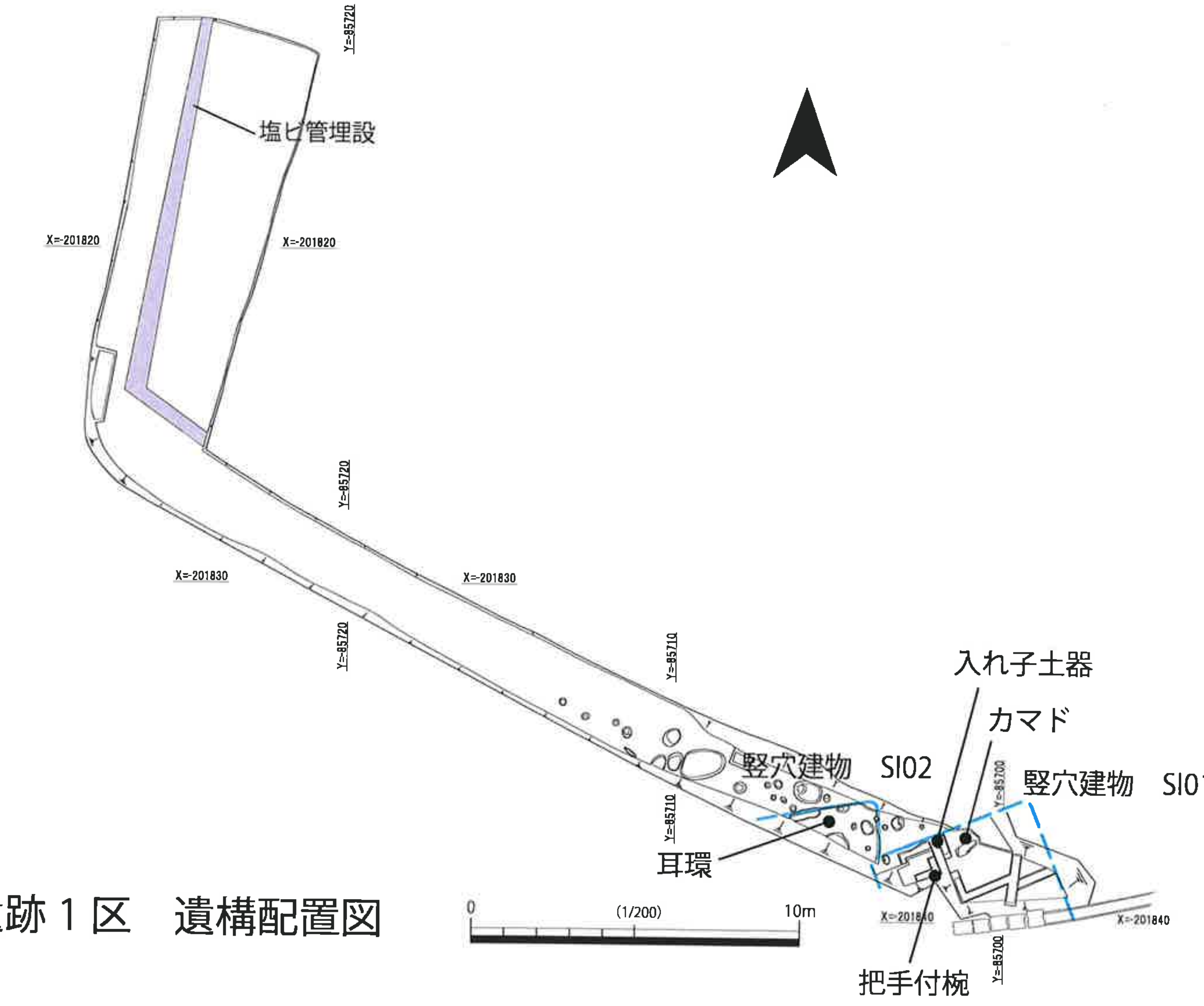
西丸遺跡１区　遺構配置図



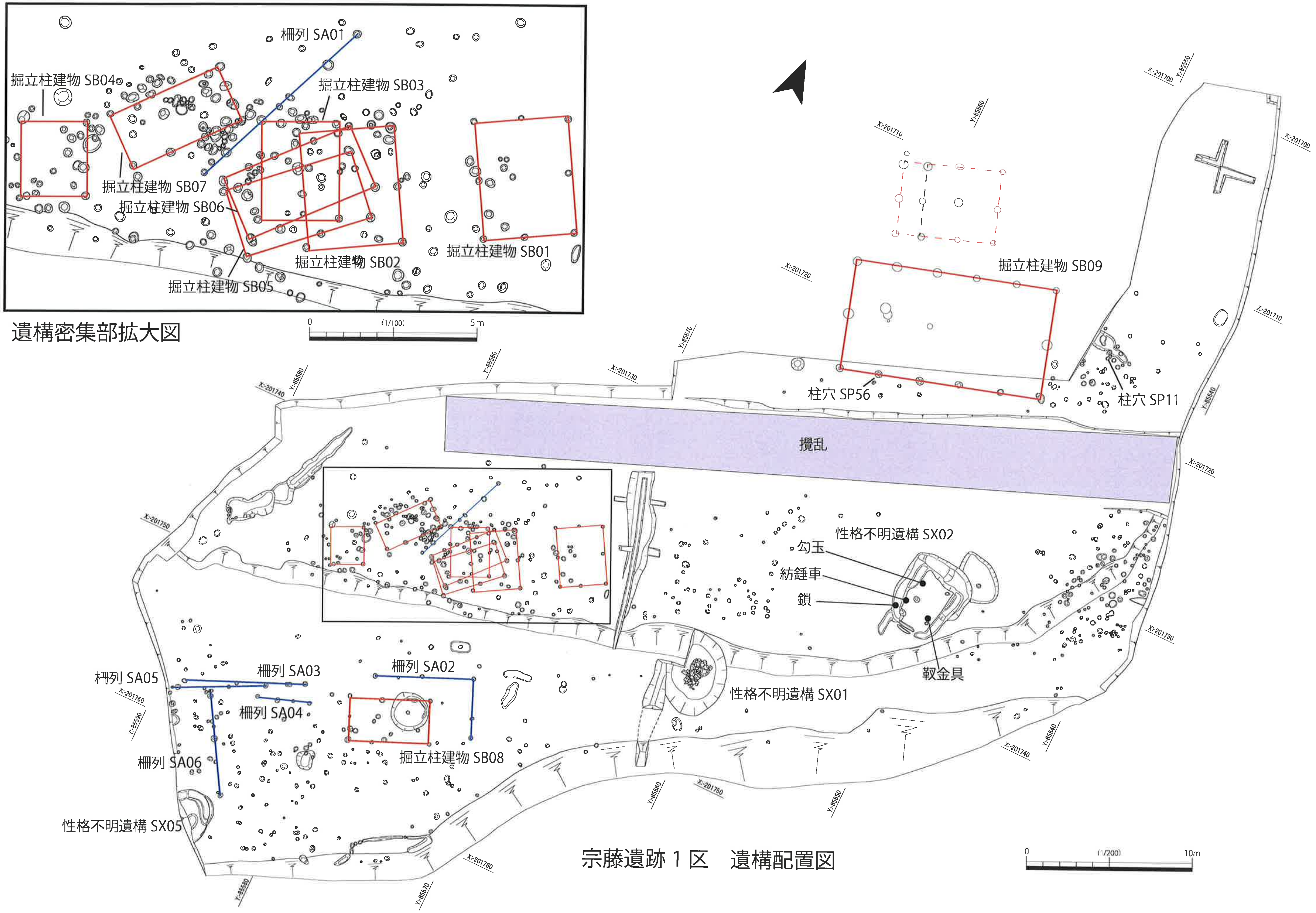
東丸遺跡２区　遺構配置図



宗藤遺跡2区　遺構配置図



東丸遺跡１区　遺構配置図



宗藤遺跡１区　遺構配置図

山口県埋蔵文化財センターについて

豊かな自然に抱かれた山口県は、日本の歴史と文化の発展の上でも重要な役割を果たしてきました。県内には、これら歴史・文化の歩みを語る埋蔵文化財が今も数多く地下に眠っています。

しかし近年の急速な国土開発に伴い、歴史遺産である遺跡の消失が危惧されます。郷土を築いてきた先人たちの足跡を後世に残すためにも、事前に発掘調査を行い、その結果を記録として留めていく必要があります。

当センターは、これら埋蔵文化財にかかる調査、研究、整理、保存・管理を行う機関として、またこれらの成果を公開し活用していただくための施設として開設されました。県民の皆さんの文化活動の拠点の一つとしてご利用いただければ幸いです。

業務の内容

○埋蔵文化財の調査・研究
- ・発掘調査
- ・出土遺物の整理
- ・出土遺物等の分析調査研究
- ・関係資料、情報の収集
- ・調査報告書の作成

○ 埋蔵文化財とその資料の整理、復元、管理

○ 埋蔵文化財についての教育、普及活動
- ・資料の利用、貸し出し
- ・発掘成果の公開、展示
- ・講演会、体験学習の実施

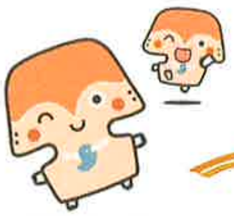
○ 市町への技術援助、情報サービス

<ご利用案内>

開館時間：８時３０分～１７時

休 館 日：毎週土曜日・日曜日・祝日
　　　　　年末・年始

入 館 料：無料



マスコットキャラクター
『ほっちょるん』

『人面土製品』
綾羅木郷台地遺跡出土

〒753-0073　山口市春日町３番22号
☎083-923-1060　Fax 083-923-2001
ホームページ　http://www.y-maibun.jp/